

三田尻鹽務局

本局

之

部

(西浦濱)

# 三田尻鹽務局本局ノ部 (西浦鹽田)

## 第一章 鹽田ノ位置、方位及ヒ附近ノ地勢、地形

西浦鹽田ハ山口縣周防國佐波郡西浦村ノ東南部ニアリテ西方ハ一面海ニ面シ東南ハ入川ヲ隔テ、道路ニ接シ北ハ入川ヲ隔テ、水田ニ界ス而シテ當濱ハ東南ヨリ北方ニ延長シ此ノ地ノ附近ハ東北南ノ三面山岳ヲ回ラシ西方一面海ニ接スルコト既ニ述フルカ如シ

## 第二章 鹽業ノ沿革

西浦鹽田ハ天明七年舊藩主英雲院公(毛利重成公)其藩撫育金ノ内ヲ其費ニ當テ開作築立セラレタルモノナリ其ノ當時ノ段別五十一町七段五畝ナリシモ爾後多少ノ増減ヲ來タシ以テ現今ノ段別(六十五町二段五畝二十七步)トナレリ抑モ此濱開作以前ハ遠淺ニシテ現今ノ原屋畑ヨリ新地裏通リハ一帶ノ高砂ニシテ字小松原ト稱シ名ノ如ク小松原ナリキ藩公開作ノ事起ルヤ近郷ヨリ築立ノタメ人夫引連レ御加勢ヲ申込ムモノ多ク寛政元年ニ至リ全ク其功ヲ奏シ其濱ヲ十ヶ年ノ年賦ニテ賣渡サル其内八軒ハ引受人ナキヲ以テ終ニ御手濱ト稱シ總見合ノ役ヲ置カレ貸渡シ營業ヲナセリ而シテ寛政元年ヨリ愈採鹹シ煎熬スルコト、ナレリ今其煙立セシ屋號及ヒ年月ヲ列記スレハ次ノ如シ

寛政元年

三月 竹屋(惠屋) 小倉屋

四月 藤本屋 富士屋(辰巳屋) 熊屋(寅屋) 三桝屋

豊後屋 廣屋 久野屋 富屋(初鹽屋)

六月 柳屋 多々屋(勇屋) 野村屋(司屋) 西村屋

八月 梅屋 野上屋

備考 以上十六軒ニシテ括孤内ニアルハ現今ノ屋號名以下之レニ同シ

同 二 年

三月 原 屋 小郡屋 若竹屋

五月 佐渡屋(上田屋) 田中屋

七月 平田屋(藤盛屋)

八月 梅 屋 松 屋 以上八軒

寛政 三 年

六月 霞 屋(鶴屋) 龜 屋 中村屋(現今存セス) 以上三軒

同 四 年

三月 伊勢屋 山本屋

四月 中 屋

五月 濱田屋(寶屋) 以上四軒

同 五 年

六月 山城屋(片島屋)

八月 戎 屋 以上三軒

同 六 年

四月 和泉屋 以上一軒

寛政元年西ノ浦小第ハ船舶ノ碇泊不便ナル爲メ北國船ノ入港少ナク又九州石炭船ノ碇泊困難ナルヨリ藩主ヨリ金子六十五貫目ヲ無利子ニテ二十ヶ年ノ年賦ニテ借入レ波止場ヲ築造セリ現今ノ右波止場之レナリ

享和三年二十ヶ年鍬下ニテ千賀一開作ヲ始メ又同年戎屋ノ下ニ一反五畝ノ開作ヲナセリ

文化元年十ヶ年鍬下ニテ寶屋、戎屋、中屋等増築ヲナセリ

文政十三年八月大潮ノタメ小第沖土手大破ヲナシ同十四年七月又々高潮ノタメ三ノ榭沖土手大破損ヲナシ鹽業上尠カラサル影響ヲ蒙リタルヲ以テ此等ノ害ヲ除カンカ爲メ又一面ニハ船舶ノ碇泊ノ安全ヲ期センカ爲メ慶應元年土地ノ有志福田善平等相謀リ鹽田ノ正面沖ニ一大波止場(長サ八十間 高サ十四間餘)ヲ築造セシカハ以來外堤防ノ破損ナキノミナラス船舶ノ碇泊自由ニシテ鹽業上多大ノ利便ヲ得ルコトナレリ

### 第三章 製鹽方法

#### 甲 鹹水採收

##### 一 鹽田ノ種類及面積

當地ノ鹽田ハ悉ク入濱ニシテ其一戸前ノ面積ハ一町五反ヲ普通トシ釜屋倉庫、納屋敷地等ノ合計面積ハ四十六坪内外トス(此普通一町五段濱ナルモノハ所謂六尺五寸竿ノ舊畝步ニテ現在ハ六尺間ニテ其一町五段濱ナルモノ概ネ一町八段内外ナリ以下同)

##### 二 堤防ノ面積、高低及築造材料

堤防ノ面積ハ一萬六千三百二十坪ニシテ其高サ二丈五尺築造材料ハ石及ヒ泥土ナリ

##### 三 鹽田内溝渠ノ面積

鹽田内溝渠ノ面積ハ二百四十坪ニシテ一筋ノ長サハ百二十間其幅四尺深サ三尺ナリ而シテ各溝渠間ノ距離ハ七間トス

##### 四 撒砂(鹹砂)浸出装置(沼井又ハ臺等)ノ構造、面積及大小、高低、配置、施設

撒砂濾過裝置即チ沼井ノ構造ハ沼井ノ兩前面及中間ハ厚板(厚サ一寸 材料松)ヲ以テ仕切り左右ハ粘土ニテ塗リ上ク但シ其一筋ノ兩末端ニアルハ三面粘土ニテ塗リ中間ニ仕切りナク前面ノ一方ノミ板ニテ圍フモノトス沼井ノ各前面ナル板ノ下ニハ僅カノ間隙ヲ殘シ其下ニ壺ヲ埋ム沼井ノ

底部ハ別紙圖ノ如ク木ノ枕ヲ置キ之レニ竹ヲ渡シ其上ニ茅ニテ編ミタルこもヲ敷キ其上ヲ割小竹ニテ押へ此こもト底トノ間ニハ僅カノ空虛ヲ存シ底面ハ粘土ニテ中間ニ塗リこもニテ濾過セラレタル鹹水ハ此凹ミヲ傳フテ前面ナル板下ノ間隙ヨ

リ溜壺ニ流下スルモノトス其面積ハ約一坪ニシテ其箇數ハ一戸前即チ一町五段ニ對シ九十臺ヲ法則トス而シテ普通ハ二箇連設ノモノニシテ沼井麓六尺ニ八尺ナレトモ其兩端ニアルモノハ一箇ニシテ六尺ニ四尺其高サ約二尺ナリ  
 沼井ノ配置ハ各筋ノ中央部ヲ手前ヨリ手先キニ約六間ノ距離ヲ以テ併列ス  
 其ノ構造ハ三田尻濱ニ同シ

- 五 撒砂(鹹砂)貯藏裝置、構造、大小、面積及撒砂(鹹砂)ヨリ鹹水ヲ採收スル方法 右該當記事ナシ
- 六 鹹水輸送裝置ノ構造、面積及輸送ノ方法 六尺四方ノ木箱ヲ八尺ノ高所ニ木脚ニヨリ据付ケ其底ニ竹管ヲ通シ其下部ヲ地下ニ入レ鹽田内小溝ノ縁ナル地下ヲ傳フテ鹹水溜ニ導ク其木箱ハ面積一坪内外ニシテ之レニ沼井ニテ濾過セラレタル鹹水ヲ溜壺ヨリ没出シ擔桶ニテ擔ヒ上ケ木箱中ニ注入スルトキハ鹹水ハ自然ニ流レテ鹹水溜ニ注入スルナリ
- 七、八 採鹹用器具ノ名稱、種類、員數、構造、大小、形狀、効用、使用方法、新調費及保存期限

名稱	員數	保存年限	新調費 (單價)	効用及使用方法
金子	六本子 四班	一ケ年	〇、九〇〇	雨後爬砂用ニ用ウ之レヲ使用スルニハ繩紐ヲ腰部ニ掛ケ柄ヲ兩手ニ握リ後ニ引ク
濱引	四挺	一ケ年	〇、四〇〇	爬砂及ヒ撒砂ヲ粉碎スルタメニ用ウ其使用法ハ柄ヲ片手ニ持チ後ニ引ク
沼井堀	四挺	一ケ年	〇、四二〇	沼井中ノ骸砂ヲ掘起スニ用ウ
掛板	四挺	二ケ年	〇、四二〇	爬起シタル跡ヲ壓砂スルニ用ウルモノニシテ繩ヲ肩ニ掛ケ其繩ヲ兩手ニ持チ之レヲ引ク
擔桶	四荷	一ケ年	一、〇二五	鹹水、潮水等ヲ運搬スルニ用ウ
寄セ板	三枚	八十日	〇、三九〇	地盤面ニ散布セラレタル鹹砂ヲ沼井ニ集容スルニ先チ集砂スルニ用フ之レヲナスニハ柄ヲ兩手ニ持チ前後ニ押シ集ム
入レ	三挺	四ケ月	〇、六〇〇	寄セ板ニテ集砂セラレタル鹹砂ヲ沼井ニ入レルニ用ウ
打杓子	四本	五ケ月	〇、二〇〇	潮水ヲ地盤面ニ散布スルニ用ウ之レヲナスニハ横ニ力ヲ入レテ抛ツ
樋蓋	二〇箇	一ケ年	〇、一五〇	小溝ノ間ニ使用スルモノナリ
大水車	一箇	三ケ年	一一、〇〇〇	鹽田内小溝ニ潮ヲ排灌スルニ用ウ
合水車	一箇	三ケ年	六、五〇〇	同 斷

めーごる	一本	一ケ年	〇、二〇〇	鹹水及もんだれノ比重ヲ驗スルニ用ウ
蠶	四挺	一ケ年	〇、六〇〇	濱引ノ竹筒ヲ削ルニ用ウ
縁リ入レ	一同	一ケ年	〇、三〇〇	散砂後小溝ノ縁ニアルモノチ内ニ入ルルタメニ用ウ之レチナスニハ小溝ノ縁ヲ傳フテ引ケ
道引鋤	二同	一ケ年	〇、二〇〇	小溝ノ縁ノ脆起ヲ補助スルタメ濱引ニテ引キタル後特ニ此ノ小溝ノ縁ヲ傳フテ引クモノナリ
當子	一八〇枚	一ケ年	〇、四〇〇	鹹砂ヲ洗滌スルトキニもんだれ又ハ潮水ヲ沼井ニ注加スルニ際シ之レニ當テ注入ス
沼井菰	一八〇枚	一ケ年	〇、三〇〇	雨水ノ沼井中ニ入ルチ防カシカタメ降雨ノ際沼井ヲ被フモノナリ

九 鹹水貯藏装置ノ構造、大小、形狀及面積

鹹水溜ノ構造ハ土中ヲ長方形ニ堀リ下ケ其内部ハ總テ粘土ヲ以テ厚サ

一尺五寸位ニ塗リ瓦又ハ茅ニテ屋根ヲ葺キ下ロシ其下端ハ殆ト地ニ接ス其中央部ノ屋根ヲ切り開キ茲ニ口ヲ設ケ石段ヲ造リテ底部ニ至ルニ便ニス又屋根下ニハ板ヲ敷キ採鹹用具鹽菰、繩等ヲ藏置シ雨天ノ際濱子等ノ鹽俵ヲ整ヘル處トス鹹水溜ノ大小ハ一定セサレトモ約三間ニ十間深サ一間位ニシテ其積ハ三十坪内外トス

十 鹽田地盤ノ構造及性質

鹽田地盤ノ構造ハ大略三層ヨリナル即チ固有ノ砂地上ニ中張ト稱シ約五寸淺黄色ノ粘土層ヲ造リ其上ニ入レ替ヘ土ト稱シ青味ヲ帶ヒタル砂約三寸位ノ厚サノ層ヨリナル

十一 撒砂ノ種類及性質

撒砂ハ黑褐色ニシテ少シク粘氣ヲ帶フ此砂ハ冬季岸津沖及大海村ノ沖ヨリ採取シ來タリ翌

年二月初旬鹽田ニ撒布ス撒砂ハ色黒キヲ良好ナリト當業者ハ云ヘリ故ニ色黒キモノハ鹽付ヨク從テ瀘過モ速カナルカ如シ

十二 撒砂撒布量及替砂ノ數

撒砂ノ撒布量ハ鹽田一坪ニ付一斗二三升ヲ普通トスレトモ舊三四月及ヒ九月十月頃ハ

此レヨリハ尠シ

十三 撒砂乾燥ノ時間

撒砂ノ乾燥ハ十一時ヨリ一時頃迄トシ季節ニヨリ變スルコトナシ

十四 撒砂(鹹砂)浸出装置(沼井又ハ臺等)ニ注入スル海水量(鹹水採收用トもんだれ採收用トニ依リ各別ノ容量)及鹹水及も

んだれ採收量

鹹砂ヲ沼井ニ收容シ之レニ注入スル海水ノ量ハ鹹水ヲ採收セントスルトキニ石使用シ鹹水採收量一

石八斗ナリトス而シテもんだれヲ採收セントスルトキハ海水二石ヲ使用シもんだれ採收量二石ナリ

十五 海水鹹水もんだれノ性質

名	員數	從業日數	一ヶ月賃銀	日飯米	月手當金	合計賃銀
上濱子(俗ニ庄屋ト示ス)	一	十ヶ月	支米一石	七合二勺	三,〇〇〇	一八,八〇八
脇	一	八ヶ月	同	八斗八升	二,五〇〇	一六,七四八
三番	一	八ヶ月	同	八斗	二,四〇〇	一四,五八八

比重(母氏) 温度(攝氏)

備考

鹹水	一六.〇度	二	以上ハ九月二十日ヨリ九月三十日ニ至ル
もんだれ	六.五	二	平均温度及比重ヲ舉ケシモノニシテ以上
海水	二六	二	ノ化學的成分ハ三田尻濱ニ同シ

十六 海水引入排出(水閘)、海水汲揚裝量及汲揚方法

海水引入及ヒ排出ハ悉ク水閘ニ依ル其裝置ハ入川ト前川トノ

間ニアル大堤防ニ閘門ヲ設ケ(之レヲ大閘ト稱ス)滿潮ノ際此閘門ヲ開キ潮水ヲ前川ニ引キ入レ後此閘門ヲ閉チ茲ニ潮水ヲ貯ヘ置クモノトス而シテ前川ト小溝トノ間ナル前途ト稱スル處ニ閘門(中間)ヲ設ケ置キ必要ニ應シテ以前ノ貯ヘアル潮水ヲ小溝ニ引キ入ル又鹽田面ノ小溝ノ潮水ヲ干ス場合ニ滿潮時ナルトキハ水車ニヨリテ排出スルモノトス

十七 海水貯溜池ノ有無、大小、深淺及面積

當地ノ海水貯溜池ハ大小一ナラス大ナルモノハ幅六間長十間小ナルハ

二間ニ三間深サハ三四尺ヨリ五六尺ニ達セリ

十八 鹽田一戸前又ハ一定段別ニ就キ一ヶ年平均鹹水採收量及月別鹹水採收歩合

鹽田一戸前(一町五反)一ヶ年平均

鹹水採收量ハ約五千五百石ニシテ平均比重ハ母氏十四度ナリ

十九 鹽田一戸前又ハ一定反別ニ就キ採鹹ニ要スル人夫ノ種類、名稱、員數及賃銀

鹽田一戸前(一町五反)ニ對スル

採鹹人夫ノ種類、名稱、員數及賃銀等ヲ表示スレハ次ノ如シ

名	稱	員數	從業日數	一ヶ月賃銀	日飯米	月手當金	合計賃銀
上濱子	(俗ニ庄屋ト示ス)	一	十ヶ月	支米一石	七合二勺	三,〇〇〇	一八,八〇八
脇		一	八ヶ月	同	八斗八升	二,五〇〇	一六,七四八
三番		一	八ヶ月	同	八斗	二,四〇〇	一四,五八八





水ヲ注キ採鹹スルモノナリ而シテ三日持チ方法ニ三種類アリテ各鹽業者ハ其一ヲ撰ミテ持濱ヲナス今其方法ヲ擧クレハ次ノ如シ

- 一 金<sup>カナ</sup> 持<sup>モチ</sup> 二 しょもくもち 三 袖<sup>ソデ</sup> 持<sup>モチ</sup>

(一) 金持トハ曲尺様ニ沼井三十臺ヲ持ツモノニシテ即チ別圖ノ如シ

(二) しょもく持トハ丁字形ニ沼井三十臺ヲ持ツモノニシテ當濱ノ製鹽家ハ此ノ方法ヲ取ルモノ多シ之レヲ圖解スレハ別紙

圖ノ如シ

(三) 袖持トハ中筋十八臺其ノ左右ヲ六臺袖狀ニ持ツコト別紙圖ノ如シ

## 二十四 鹹水採收ニ關スル其他ノ事項

撒砂ハ泥ト稱シ一沼井ニ付三代リノ砂ヲ備フ即チ第一日ニ使用セル甲ノ砂ハ

三日目ニ至リ沼井ニ入レラレ鹹水ヲ取り同時ニ其跡ニ前ニ採鹹シテ沼井麓ニアル撒砂ヲ撒布ス翌日ニ至リ採鹹ノタメニ沼井ニ收容セラレタル土ヲ掘出シ沼井ノ肩ニ置ク如斯甲砂ハ沼井中ニアリ乙砂ハ沼井麓ニアリ丙砂ハ散布セラル等循環使用セラルルモノナリ

又濱引ニテ引クニ種々ノ方法アリ最初横鍬及ヒ大斜<sup>ナダイ</sup>(以上ヲ中鍬)ヲ引キ次ニ大斜(之レヲあい鍬ト稱ス)ヲ引キ其レヨリ横鍬持鍬ヲ引ク而シテ翌日持チハ今日さいしト稱シ縦鍬ノミヲ引キ置クモノトス其形式ハ別紙圖解ノ如シ

## 乙 鹹水煎熬

### 一 釜屋ノ構造、大小、廣狹及面積

釜屋ハ普通五間ニ六間即チ三十坪ニシテ家根ハ藁又ハ瓦葺ニシテ低ク四方へ垂

レ屋根ノ中央又ハ兩端ニ口ヲ開キ以テ鹹水煎熬ヨリ發散スル水蒸氣ヲ漏出セシムルト同時ニ光線ヲ取ルニ供フ屋根ノ四方ハ粗壁トシ前面ノ中央部及ヒ其側部ニ二箇所ノ入り口ヲ設ケ板戸ヲ以テ開閉ス又釜屋ノ一隅ニ一坪餘ノ室ヲ設ケ疊ヲ敷キ釜焚キ人ノ休憩所トナス

釜屋ノ内部ハ中央ニ煎熬釜ヲ据付ケ其後方ニ粘土ニテ塗リタル煙道ヲ設ケ屋外ニ通シ煙突ニヨリ煙ヲ空氣中ニ飛散セシム

又釜ノ後方煙通上ニ温メ釜ト稱スル釜ヲ設置シ餘熱ニヨリ豫メ鹹水ヲ温ム其他ひようたん、石炭置場、居出場、苦汁壺等便宜ノ位置ニ設備スルコト大概別紙圖解ノ如シ

## 二 釜及竈ノ種類、構造、大小、製造原料及釜ノ深淺

結晶釜ハ石釜及ヒ鐵釜ニシテ當西ノ浦三十四軒中鐵釜ハ僅ニ六軒ニ過キスシテ他ノ全部ハ石釜ナリ石釜ハ大同小異ナレトモ普通横一丈五寸ニ幅八尺二三寸深サ四寸トス而シテ其ノ構造ハ先ツ竈ノ廣サニ相應スル四本ノ縁金ヲ四方ニ置キ其ノ四隅ヲ鐵ノ兩端鍵狀ヲナセル隅金ト稱スルモノニテ締付ケ其中ニ厚サ一寸堅五寸幅三四寸ノ稍々長方形ナル御影石(此御影石ハ徳山及ヒ秋穂ヨリ仰ク)ヲ列ラヘ粘土ト溝泥トヲ鹽水ニテ練リ縁及ヒ石ト石トノ間ヲ塗リ繋キ尙ホ石ノ間ニハ堅八本横四本ノ鈞金ヲ併列シテ狹ミ込ミ下端ノ鍵ハ石ヲ鈞リ上ナル鍵ハ釜ノ上ニ渡サレタル丸太ヨリ下ケラレタル針金ニテ鈞上ケラル又其丸太ハ竈ノ四隅ニアル高サ三四尺角七八寸ノ石柱ニ架セラル即チ前後各別ニ石柱ヨリ石柱ヘ横ニ渡シ此丸太ヲ土臺トシ更ニ堅ニ四本乃至五本ノ小丸太ヲ渡ス(此小丸太ハ鈞金ノ横ノ數ニ等シ)

鐵釜ハ皆鍛鐵ニシテ三枚ヲ繼キ合セタルモノナリ其大サハ堅一丈一尺五寸横八尺深サ五寸其繼キ目ハ螺旋ヲ以テ締メ合ハス中ニ四本ノ鈞金アリテ石釜ニ於ケルカ如ク釜上ノ丸太ニ鈞ラル

## 三 石釜及竈築造方法及ヒ築造後使用ニ至ル迄ノ操作

石釜及竈築造方法及ヒ使用ニ至ル操作ハ前ニ述ヘタル如ク竈ノ

側面ニアル二ツノて穴ヨリ相對スルて穴ニ二本ノ丸太ヲ渡シ其上ニ厚サ一寸二三分幅一尺内外ナル板ヲ堅ニ列ヘ(之レヲ釜板ト稱ス)其四方ニ縁金ヲ廻シ隅金ニテ繋キ縁ノ心ヲ拵ヘ其レヨリ板ノ下ニ平石ヲ列ヘ粘土ト溝泥トヲ鹽水ニテ練リ合セ漆喰様ノモノヲ作り縁及ヒ石ト石トノ間ヲ塗リ固メ其間ニ三十二箇ノ鈞金ヲ挟ミ込ミ此ノ石ヲ鈞ル之レヲ釜ノ上面トス此上面出來上カレハ其上ニ高サ二尺許ニ一面薪ヲ積ミ其上ニ濡レタル薪ヲ掩ヒテ薪ニ點火ス此操作ハ朝ヨリ夕刻マテニ塗リ上ケ直ニ火ヲ點スルモノナリ而シテ火ハ盛ニ燃へ上ルモ濡レ薪ノタメ其火力ハ上ニ向フヲ得ス釜面ノ下ニ向テ焼付ケラルルカ故ニ釜面ハ次第ニ燒キ固メラレ遂ニ鹽釜トナル又此ノ火ハ僅ニ二三時間ニシテ燃へ了ルモ殘火ハ其儘トシ翌朝ニ

至リ奇麗ニ掃除ヲナスモノトス

已ニ鹽釜トナレハ水ヲ入レテ其平準ナルヤ否ヤヲ試ミ平準ヲ得タリトスレハ前述ノ如ク釜ノ四隅ノ石柱ニ丸太ヲ渡シ釣金ヲ釣り然ル後釜下ナル釜板ヲ取り外シ竈ト釜ノ空隙ヲ塞キ火ヲ竈ニ入レ釜ノ下面ヲ燒キ固メ夫レヨリ釜ハ引續キ使用セラ  
ルルモノナリ

温メ釜ハ鑄鐵ニテ直徑三尺六寸深サ二尺二寸七分容量約二石ニシテ釜屋ニハ必ス一箇ノ温メ釜ヲ設備セリ  
竈ハ約一坪内外ニ地ヲ掘リ其内部ハ粘土ヲ以テ固メ底部ニ至ルニ從ヒ狹ク石炭挿入口ニハ傾斜セル幅一尺許ナル土手狀ノモノヲ作り其上ニ石炭ヲ置キ燃燒セシム其殻ハ左右ニ落下セシム又竈ノ後部ニハ一ノ長方形ノ穴アリ之レ即チ煙ノ洩出スル處ナリ

四 鹹水ヲ釜屋ニ輸送スル装置、構造及方法

既ニ述ヘタル如ク鹽田ニテ採收セシ鹹水ハ擔桶ニテ鮫鱈ニ入レタル鹹水ハ竹管ヲ通シテ次第ニ鹹水溜ニ集マル而シテ茲ニ集マリタル鹹水ハ又竹管ヲ通シテ釜屋ノ内部ナル溜桶ニ來タル茲ニ於テ此ノ溜桶ヨリ釣瓶ニテ温メ釜ニ移シ次テ鹽釜ニ移スモノトス

五、六 煎熬用器具ノ名稱、種類、員數、形狀、大小、構造、新調費及保存期限

名	稱	員數	保存年限	新調費 (單價)	備	考
煎熬釜	釜(石)	一	四十日	一三〇〇五		
温目釜	釜	二	一ケ年	九〇〇〇		
鹽釜	緣金	一	二ケ年	一七五五〇	煎熬釜築造ニ要スル金物	
釣金	金	三五	三ケ年	〇、二四〇	同上	
釣木	木	二	五ケ年	〇、二八〇		
根太	木	二	十ケ年	〇、七〇〇		
釣針	金	三五	九十日	〇、〇一〇	煎熬釜釣付ケ用	

  

名	稱	員數	保存年限	新調費 (單價)	備	考
釜	柱	四	二ケ年	〇、二五〇		
炭入	十能	一	一ケ年	〇、七五〇		
割	十能	一	一ケ年	〇、七五〇		
すき	十能	一	二ケ年	〇、九五〇		
れ	き引	一	二ケ年	〇、七五〇		
手	こ	二	二ケ年	一、六五〇		
つ	む	二	三ケ年	〇、〇五〇		



種類	員數	從業日數	一日賃銀	一日飯米	賃一ケ年	備考
日釜	一	二四〇	〇七五	二七五	一〇三、八〇〇	玄米一石ハ拾三圓ト見積ル
夜釜	一	二四〇	〇七〇	二五〇	一〇一、〇〇〇	
合計	二	四八〇	一、四五	五、二五	二〇四、八〇〇	一人當 百二圓四十二錢

十二 一晝夜ニ於ケル煎熬ヲ終ル釜數及鹹水量並ニ其收鹽量 一晝夜ニ於テ煎熬ヲ終ル釜數ハ拾三ニシテ之レニ要ス

ル鹹水量ハ貳拾六石之レヨリ製産スル鹽ノ數量ハ九石一斗ナリトス

十三 鹽田一戸前又ハ一定反別ヨリ得タル製鹽總量 鹽田一戸前(一町五反)ヨリ得ル製鹽總量ハ平年二千石トス(但

シ全部五等鹽)

十四 居出場ノ構造、大小、廣狹 居出場ノ構造ハ釜屋ノ一隅ヲ三ツニ仕切り三方ヲ葦ニテ張り床ノ下層ハ砂又ハ石

炭ノ燒キ殻ヲ以テ充タシ其ノ上ヲ薄キ粘土ニテ固ム然レトモ近來之レニ屋根ヲ設ケ或ハ葦ニ代フルニ張板リトシ居出場前

ニ板ヲ置ク等務メテ塵埃ノ混入ヲ防キツツアリ其廣サハ大抵四尺四方ナリ

十五 煎熬ニ關スル操作及其方法 當西ノ浦濱ノ如キハ全部差鹽ニシテ其煎熬操作ハ先ツ釜中ニアル鹹水已ニ結晶シ

テ鹽トナリタルトキハ之レヲ苦汁壺ノアル方ニ柄振ヲ以テ搔キ寄セ置キ其跡ニ溫メ釜中ニアル鹹水五、六杓子ヲ汲ミ注キ

鹽ヲ苦汁壺上ニアル箆中ニ搔キ出スモノトス而シテ溫メ釜中ニアル鹹水全部ト苦汁壺中ニアル苦汁トヲ鹽釜ニ注キ煎熬ヲ

繼續ス但シ溫メ釜ニハ汲ミ出シタル後直ニ溜桶ヨリ釣瓶ニテ汲ミ移シ置キ前ノ如ク餘熱ニヨリ溫メ置ク苦汁ハ一釜ヨリ得

タル鹽ヨリ滴下シタル量ヲ注加スルモノナリ而シテ次ノ鹹水結晶シ始ムレハ箆中ニアル鹽ヲ居出場ニ移シ置ク等此操作ヲ

循環繼續スルモノナリ

十六 從來使用シタル釜及竈ノ變遷並ニ使用燃料ノ變遷

十七 煎熬ニ關スル其他ノ事項

右二項該當記事ナシ

十八 一ケ年間ノ平均煎熬日數

一ケ年間平均煎熬日數 二百四十日

十九 一ケ年間平均收鹽量

二千石

二十 一ケ年間採鹹及煎熬總費用

一戸前(二町五反中田) 採鹹總費用ハ七百參拾四圓拾貳錢

一戸前(二町五反中田) 煎熬總費用ハ千百五拾貳圓六拾八錢

備考

以上ハ明治三十三年ヨリ同三十七年ニ至ル五ケ年平均ナリ

二十一 從來平年ニ於ケル鹽田一戸前又ハ一定反別ノ收支計算表

支出之部

費目	金額	說明	明
諸稅金	五九六四〇		
石炭代	七〇八六五	百九十二日半一日平均元山炭拾五振五合宛一振ニ付金拾九錢此金五百六十六圓八十六錢五厘三池炭一日平均二振四圓十錢此金百五十四圓	
塗灰代	二五〇〇	鹽釜改造五回分 金五拾錢ツ、	
釜石代	一一八七五	鹽釜構造五回分釜石千二百五十個一個ニ付九厘五毛	
焚木代	一三、六五〇	鹽釜構造用焚木五百二十五抱一抱ニ付金二錢六厘	
石灰代	五五〇	同上石灰十俵一俵ニ付金五錢五厘	
赤土代	四〇〇	同上赤土二十振一振二錢	
入替土代	三五、七五〇	貳十五萬斤一萬斤ニ付金一圓四十三錢(仲仕賃共)	
溫目代	八、七〇〇	溫目釜一個新調補充	
金物代	九、五〇〇	金物道具新調費並ニ修繕費共	
鍬代	二〇、五〇〇	鍬類新調及修繕費	

(九) 三田尻鹽務局本局ノ部

第三章 製鹽方法 乙 鹹水煎熬

費目	金額	說	明
桶類杓新調及修繕費	七五〇	桶類杓新調及修繕費	
繩菰代	一八八〇五	五斗入三千三百六十俵一俵ニ付五錢五厘繩共	
沼井菰代	五四〇〇	沼井九十臺(壹臺一枚ツツ)一枚金三錢	
當子代	二、五〇〇	同上二個ツ、年二回計三百六十枚分	
藁代	三、〇〇〇	沼井下敷藁二百五十抱一抱ニ付一錢二厘	
蕈代	八、〇〇〇	釜構造用臺壺用其他四百枚一枚ニ付金二錢	
小竹代	三、〇〇〇	濱引鋤用小竹七百五十本一本金四厘宛	
石油代	七〇六二	釜屋二百十四日間燈火料一夜ニ付金三錢三厘	
鹽籠代	四、五五〇	鹽籠十三個一個ニ付金三十五錢	
樋普請代	一〇、五〇〇	樋普請木代及作料共	
屋根替代	九、八〇〇	釜屋臺坪屋根葺賃	
修繕費	三、五〇〇	建物沼井臺共修繕費	
石殼拾費	九、〇〇〇	石炭焚殼積拾費	
雜費	二、五〇〇	費用外諸雜費	
運搬費	六、二〇〇	鹽務局倉庫迄持運ヒ賃百石ニ付金四圓ノ割	
會所費	二、五〇〇	會所維持費	
利息	五、〇〇〇	營業資本金五百圓年一割	
下拵費	九、〇〇〇	營業開始前臺坪打綾地盤ナラシ三十人分一人三十錢	
女日雇	二、〇〇〇	寄セ女三人宛百濱延三百人一人金七錢	
沼井踏	九、八〇〇	百四十濱一日金七錢	
土捨費	二、六〇〇	同百四十濱一日金九錢	
水取賃	四、〇〇〇	鹹水汲取賃二百五十人一人前金拾七錢	
釜番給	一〇、五〇〇	持止メ後三十日間釜番給一日金二十五錢	

濱子 給米	三三,二〇〇	二百六十日間濱子四人給米(一石、八斗八升)計三十七石二斗代石十三圓當
濱子 飯米	九七,三四四	同上四人飯米七石四斗八升八合一日一人七合二勺當
濱子月別手當	八四,二五〇	同上四人月別手當八ヶ月半分(三圓三十錢、二圓五十錢)
釜焚 給米	一五,七六〇	釜燒二人二百十四日此給米一石二斗三升五合釜製作三十人給米八斗二升五合計十二石六斗其代金(日釜二升七合五勺夜釜二升五合)
釜焚月別手當	三,〇〇〇	同上二人二百十四日月別手當日釜七錢五厘夜釜七錢
酒 肴 料	三,〇〇〇	節旬祝日御酒
賞 與 金	一〇,〇〇〇	年末賞與金
建物消却費	四〇,〇〇〇	建物價格一千圓保存期二十五ヶ年間償却金
加地子金	四九,〇〇〇	固定資本七千圓ニ對スル年七朱ノ利息
計	二七,七四六	

收入之部

製 鹽 高	三,四九,〇〇〇	一ヶ年製鹽高三十六萬斤五等鹽ニ對スル賠償價格
差 引	七四,二五四	純利益金

二十二 其他採鹹煎熬ノ方法、鹽田、釜、竈其他ニ關シテ進歩シタル點、改良ヲ要スヘキ點及改良案 右該當記事ナシ

第四章 製鹽及副産物ノ種類、用途

一 眞鹽又ハ差鹽ノ區別及各別ノ數量 當所ノ製鹽ハ全部差鹽ニシテ鹹水ト混和スル苦汁ノ割合ハ鹹水二石ニ對シテ苦汁約三斗ナリ

二 鹽ノ理化學的性質



西ノ浦食鹽分析成績表

年月日	釜種類	年月日	結晶	水分	鹽分	夾雜物	總鹽素	夾雜物ノ鹽素量	加里ト化合セル鹽素	鑑定成績	製造者氏名
三十八年十月十一日	石釜	三十八年八月廿一日	稍大	一三、〇〇〇	七〇、八九三	一六、一〇六	四八、九二一	四、四七六	一、四五三	六五、四一九	若竹屋 守 田 太 助
同	同	同	粗	一四、〇〇〇	六八、一〇八	一七、八九二	四六、七九四	四、四三一	一、〇五五	六三、二一九	田中屋 守 田 太 助
同	同	同	同	一六、〇〇〇	六六、一六三	一七、八三七	四六、〇八五	五、〇〇七	〇、九五〇	六〇、九九六	勇屋 藤村吉九郎
同	同	同	同	一五、〇〇〇	六五、七七一	一九、三二八	四七、五〇三	六、一五九	一、四五三	六〇、四二七	司屋 藤村吉九郎
同	同	同	同	一四、〇〇〇	七二、二六一	一四、七三九	四七、五〇三	三、七二三	〇、五六一	六六、九一三	野上屋 若月他人
同	同	同	同	一四、〇〇〇	六九、一三二	一六、八六八	四七、五〇三	四、一二一	一、四五三	六四、三五六	上田屋 今田豊吉
同	同	同	同	一四、五〇〇	六七、六四〇	一七、八六〇	四六、七九四	四、四七六	一、二九四	六二、六一八	藏本屋 河本萬五郎
同	同	同	同	一五、〇〇〇	六五、〇七六	一九、九二四	四六、〇八五	五、〇〇七	一、六〇九	五九、五八八	小郡屋 林 藤三郎
同	同	同	同	一五、〇〇〇	六七、三四九	一七、六五一	四六、七九四	四、六五三	一、二九四	六三、五八	初鹽屋 森川房太郎
同	同	同	普通	一四、〇〇〇	六七、七〇六	一八、二九四	四六、七九四	四、二二一	一、六〇九	六二、六四八	伊勢屋 藤田庄八

備考 可檢品ハ煎熬後三日ヲ經過セルモノニシテ居出場ノ中部ヨリ採取シタルモノナリ

三 鹽ノ主要用途 鹽主要ノ用途ハ漬物、味噌、醬油用及ヒ漁業用ナリ

四 鹽(各等級)ノ容量ニ對スル重量 鹽(五等)一升ノ重量ハ平均二百六十匁ナリ

五、六 苦汁ノ用途及利用方法 右二項該當記事ナシ

七 苦汁生産量 苦汁ノ生産量ハ鹽田一戸前ニ付約八百三十四石六斗ナリ

八 苦汁ノ貯藏裝置及貯藏方法

九 苦汁一石ノ賣買價格

十 苦汁ノ運搬方法及販路

十一 苦汁ヨリ生スル副産物製造裝置及製造方法

十二 副産物ノ種類、名稱及用途

十三 副産物ノ價格及販路

右六項該當記事ナシ

十四 鼠鹽、かいさき鹽、泥鹽、居出鹽、釜立鹽等ノ粗惡鹽產出額及其使用方法

かいさき及ヒ泥鹽ハ其ノ產出額極

メテ僅少ニシテ特ニ記ス可キモノナシ此等ハ從來肥料用トシテ一斗ニ付五錢内外ノ價格ニテ近郷ノ農家ニ販賣セリ而シテ釜立鹽ハ次ノ釜築造ニ必要ナルヲ以テ貯藏シ置キ次回ノ釜築造ニ使用スルモノトス

## 第五章 鹽ノ包裝及秤量

一 從來ニ於ケル一包裝ノ數量

從來ニ於ケル一包裝ノ數量ハ所謂販路地ニヨリ區々ニシテ一定セサレトモ五斗入、

一斗六升入、八升入等アリ五斗入ニテ其重量ハ正味八拾四斤内外ナリ

二 包裝ノ形狀、種類

包裝ノ形狀ハ梅鉢狀ニシテ五斗入(大俵)ハ十角其他ハ(一斗六升入、八升入)五角ナリ而シテ

包裝ハ皆俵入レナリ詳細ハ三田尻鹽ニ同シ

三 包裝ノ編製方法及其原料

別紙圖ニ示スカ如ク已ニ鹽ヲ俵ニ入ルレハ五斗入ハ徑五分位ノ繩ニテ三ヶ所ヲ結束シ

並ニ堅ニ四ヶ所ヲ結フ小俵ハ徑一分位ノ繩ニテ前ノ如ク結フ其原料タル鹽俵及ヒ繩ハ近郷ノ農家ヨリ買入ル

四 各種包裝ノ價格

鹽ノ包裝ハ普通濱子等ノ仕事ニシテ從テ一定セル價格ナキモ濱子引上ケ後ハ人夫ヲ雇フテ包裝

ス此際大俵ハ一俵包裝價格八厘内外即チ拾石ニ付拾六錢ナリ

五 包裝ハ一重ナルカ又ハ二重ナルカ又ハ其形狀、大小等販路先ニ依リ差異ノ有無

包裝ハ通常一重ナルモ買手ノ注

文ニヨリ二重トスルコトアリ又其形狀大小等モ販路先ニヨリ異動アリ例セハ東北行キハ五斗俵ニシテ九州行キハ八升俵ナルカ如シ(二斗三升ハ越前地方)

六 包装ニ附記スル商標其他記號ノ種類、形狀、大小 包装ニ附記スル商標其他ノ記號ヲ圖解スレハ別紙圖ノ如シ

備考 双方共烙印ニシテ下圖ノイハ釜屋ノ順序ニヨリイロハニト順次ノ記號ヲ附ス

七 秤量器ノ種類、形狀、大小及材料 秤量器(榭)ハ桶狀ヲナシ五升入ト四升入トアリ其他必ス普通ノ一升榭ヲ備フルモノトス

## 第六章 貯藏方法

一 倉庫ノ構造、大小及壁床ノ構造 鹽倉ノ廣狹ハ固ヨリ一定セサレトモ普通三間ニ四間即チ拾貳坪ニシテ屋根ハ瓦

葺又ハ茅葺ニシテ天井ナク四方ハ土壁ノ上ヲ板張リトシ床ハ固有ノ地盤ヲ約五六寸堀リ下ケ砂ヲ充タシ其上ヲ粘土ニテ叩キ均ラス當地ノ鹽倉ハ主トシテ保存ヲ目的トスルモノニシテ極メテ風ノ流通ヲ避ケ散鹽トシテ約四五百石ヲ滿タスニ足ル通常之レヲ二ツニ仕切り奥ナル所ヲ鹽置場トナシ板戸ヲ以テ仕切り前ナル處ハ包装シタルモノヲ置ク場所トス其他ノ場所ニハ割竹ヲ繩ニテ編ミタル簀ヲ置キ其上ニ鹽俵ヲ積ムモノトス

二 貯藏方法及貯鹽期間ニ於ケル俵ノ損傷ノ程度及狀態 悉ク散鹽トシテ貯フモノニシテ其方法ハ煎熬後三日目ノモ

ノヲ居出場ヨリ運ヒ次第ニ上ノ方ニ積ミ上クルモノトス而シテ茲ニ貯ヘラレタル鹽ハ買手ノ注文ニ應シ直チニ包装スルモノトス

三 俵裝ノ大小ニ依ル積載ノ高サ若クハ俵數及積載方法 右該當記事ナシ

四 一ケ年間ニ於ケル真鹽差鹽ノ各貯藏步減及滴出苦汁量 一ケ年間ニ於ケル當地差鹽ノ貯藏步減ハ約三割ニシテ苦

汁ノ滴出量百石ニ付一石内外時季ニ依リ多少步減ノ差アレトモ未詳ナリ

五 苦汁ノ採收方法及貯藏裝置

六 古積鹽ノ製造方法、製造期間ニ於ケル鹽歩減ノ割合

七 古積鹽製造用家屋ノ大小、構造及床、四壁ノ構造

右三項該當記事ナシ

## 第七章 鹽ノ販賣

一 從來ニ於ケル鹽販賣ノ方法

從來ニ於ケル鹽販賣ノ方法ハ鹽田會所ナルモノアリテ鹽ノ販賣及ヒ鹽田規約ニ關ス

ル一切ノ事務ヲ掌レリ(此會所ハ鹽業者全部ヨリ組織セリ)先ツ船乘ナル者來リテ鹽田會所ニ就キ買取ラントスル數量及ヒ直段ヲ申入ル茲ニ於テ鹽田會所ノ代表者ハ同所ノ規約範圍ニ於テ自由ニ懸引ヲナシ賣買ノ直段ヲ定ム而シテ製鹽者自ラハ其直段ニ付キテハ何等ノ異議ヲ唱フルヲ得サルモノトス已ニ直段定マレハ鹽田會所ハ其數量ヲ各製鹽者ニ割當テ鹽ノ直段各自ノ賣出ス可キ數量及ヒ引渡ノ時日、場所等ヲ通知ス各鹽業者此通知ヲ受クレハ直ニ鹽ヲ包裝シ上荷ヲナスニ差支ナカラシム斯クシテ會所員、船乘同道ニテ各鹽業者ニ就キ其數量ト品質及ヒ升目等ヲ檢シ現品ノ授受ヲナス然ル後各製鹽者ハ自己ノ費用ヲ以テ之ヲ本船ニ運フモノトス

鹽ノ販賣ニヨリ受取ル可キ代金ハ鹽田會所ニテ現品ト引換ヘ現金ニテ受取ルヲ普通トス而シテ會所ハ百圓ニ付三步一厘五毛ノ手数料ヲ控除シテ之レヲ各製鹽者ノ賣出シタル數量ニ依リ分配スルモノトス

二 鹽ヲ賣買スル船頭ノ習慣及ヒ船頭カ鹽ヲ賣買運搬スル方法、船員ノ給料、船頭ト鹽商トノ關係

鹽ヲ賣買スル船

頭ハ其地ノ鹽問屋ニ來タリ鹽ノ賣買ヲナス而シテ鹽問屋ハ此場合何レモ彼等ヲ歡待シテ凡テノ便宜ヲ與フルモノトス船頭已ニ鹽ヲ買入ルレハ各地ノ鹽集散地ニ通報シ之レカ直段ヲ問ヒ合セ直段結定ノ上航海ス船員ノ給料ハ一定セサレトモ二十圓以下七八圓迄トス但シ積ミ荷ヨリ得ル利益ノ歩合ヲ取ル方給料ヨリ多シト云フ

三 從來ニ於ケル鹽ノ販路

從來ニ於ケル鹽ノ販路地ハ越前(三國、敦賀)秋田(能代土崎)青森北海道(函館、小樽、利

尻)但馬因幡、出雲肥前(島原)筑後(久留米若津)等ナリ

四 鹽商カ鹽業者ニ資金ヲ融通スルノ有無及其方法、契約竝ニ償却ノ方法

右該當記事ナシ

五、六 從來ニ於ケル鹽ノ濱相場小賣價格及鹽價ノ定メ方

鹽價ノ定メ方ハ三田尻大濱ヲ標準トシ會所之レヲ定メリ

(濱相場小賣相場等モ同シ)

七 販賣ノ季節

鹽ノ販賣ハ季節ニ大關係ヲ有スルモノニシテ即チ航海季節中ナレハ何時ニテモ販賣スルコトヲ得ル

ト雖モ九月十月ヲ最盛期トシ一月二月ハ惡シキモノトセリ

八 鹽ノ俵數拔検査ノ方法

鹽ノ俵數及其他ノ検査ハ已ニ述ヘシカ如ク會所員船頭(買手)同道ニテ各賣出ス可キ各製

鹽家ニ就キ鹽ノ品質、俵數、包裝ノ模様等ヲ検査セリ詳細ハ三田尻ニ同シ

九 鹽ノ受渡ニ際シ重量、容量ノ減少ニ對スル處置

鹽ノ受渡ニ際シ重量、容量少ナキトキ即チ五斗入ニシテ榊切二

升以内ナルトキハ其足ラサル分ヲ補ヒ若シ二升以上ナルトキハ倍欠(ばい、かん)ト稱シ足ラサル分ヲ補充シタル上ニ尙ホ補充シタル數量ヲ罰トシテ引渡スモノトス又一斗六升以下ノ小俵ニシテ榊切五合以内ナルトキハ之レヲ補ハシメ其レ以上ナルトキハ前述ノ如ク倍欠ト稱シ補ヒタル上ニ尙補ヒタル數量ヲ罰トシテ引渡ス習慣アリ故ニ其實量ハ決シテ缺クル事ナキノミナラス其レ以上ヲ填充セリ例ヘハ五斗入ナレハ其實五斗三四合アリ小賣一升ノ實量モ亦同シ

十 鹹水賣買ノ有無及其方法、價格ノ定メ方

十一 製鹽ノ原料タル鹹水ニ對スル見越買ノ有無及其方法

右二項該當記事ナシ

## 第八章 鹽運搬ノ方法及ヒ運搬費

一、二 從來ニ於ケル鹽ノ運搬方法及其各種積載數量、各運搬ニ依レル運搬先迄ノ鹽一定量又ハ一定容量ノ運賃及出荷地ニ於ケル手數料、諸掛費、保險料、着荷地ニ於ケル諸掛費用等鹽ノ運賃ト他ノ運賃トノ差異

從來ニ於ケル鹽ノ運搬ハ各製鹽場ヨリ上荷ト稱シ小船ニテ二百俵乃至三百俵ヲ積ミ本船ニ移スモノトス而シテ此費用ハ賣手ノ負擔トシ其運搬ハ

百石ニ付金二圓トス而シテ本船ハ凡テ帆舞船ニシテ大ナルハ一萬俵(五斗俵)小ナルモ五百俵ヲ積ミ各地ノ鹽集散地ニ向フ此等ノ運搬賃ハ個々別々ニシテ不明ナリ

### 第九章 小作人ト地主トノ關係

一 小作人ト地主トノ關係 小作人ハ採鹹煎熬用器具器械ノ類ヲ自己ノ負擔トシ地主ハ建物ノ修繕次ケヲ負擔スルヲ普通トス而シテ小作人ハ小作料其他一切ノ契約ハ營業開始前地主ト協議決定スルモノニシテ當地ノ小作人ハ大抵數年前若クハ十數年前ヨリ同一ノ鹽田ヲ小作シ居ルモノニシテ年々豐凶又ハ鹽價ノ高低等ニ依リ小作料ヲ上下スルコトナシ其他別ニ記ス可キモノナシト雖トモ小作人及小作料等ヲ表記スレハ次ノ如シ

地 主 名	濱屋名	小作人名	一ケ年小作料	備 考
西ノ浦村 岸本義次郎	藤本屋	河本萬五郎	三五,〇〇〇 <small>円</small>	
右田村 穴戸トミ	辰己屋	立石進四郎	三五,〇〇〇	
熊毛郡三嶽村 山本郁彦	山本屋	山本榮太郎	四〇,〇〇〇	
右田村 穴戸トミ	龜屋	國弘彦三郎	三五,〇〇〇	
西ノ浦村 藤本吉九郎	片島屋	柳 藤 吉	三五,〇〇〇	
吉敷郡秋穂村 山尾福三	戎屋	藤村 郁一	四〇,〇〇〇	
同 人	近屋	柳 藤 吉	三五,〇〇〇	
熊毛郡周防村 山口信明	廣屋	藤田 庄八	四〇,〇〇〇	三十七年度ハ四百五十圓ナレトモ本年ハ未定但三十五年同人小作
西ノ浦村 藤田貞三	松屋	同 人	未定	三十七年ヨリ同人小作
吉敷郡秋穂村 藤田平作	伊勢屋	同 人	未定	三十七年度ハ三百圓本年ハ未定十六年ヨリ同人小作
西ノ浦村 安雲四郎	若竹屋	守田 太助	三七五,〇〇〇	
同 人	寅屋	同 人	三七五,〇〇〇	

地主名	濱屋名	小作人名	一ヶ年小作料	備考
熊毛郡周防村 松浦貞固	鶴屋同	人	未定	三十七年度ハ二百九十圓本年ハ未定
計 一三				

第十章 組合

一 鹽製造組合ノ組織規定及沿革

二 鹽販賣組合ノ組織規定及沿革

三 燃料其他需用品購買組合組織規定及沿革

事項竝記

當西ノ浦濱ニテハ別ニ組合トテハアラサルモ製鹽業者一同ヨリナレル一ノ團體アリ之レヲ會所ト稱ス此會所ニハ頭取一名取締三名專務取締一名ヲ置キ販賣及ヒ鹽田規約ニ關スル凡テノ事務ヲ取扱フ所トス從來當濱ニテハ販賣ヲ一切鹽問屋ニ委セシカ斯克テハ鹽問屋カ往々不正ノ手段及ヒ利益ヲ貪リ買手ニ満足ヲ與フル能ハサル點ヨリ明治十四年全然鹽ノ販賣ヲ會所ニ於テナスコトトナシ其他會所ハ包裝ノ一定ヲ期センカタメ鹽俵ノ共同購入ヲナセリ燃料及ヒ其他ノ需要品ハ製鹽者各自ノ購入ナリ而シテ專賣後ニ於ケル當濱ノ規約ハ次ノ如シ

西ノ浦鹽田會所規約

第一章 總則

第一條 本所ヲ西ノ浦鹽田會所ト稱シ山口縣佐波郡西ノ浦村第四百五番屋敷ニ設置ス

第二條 本所ハ山口縣佐波郡西ノ浦村ニ於テ鹽田ヲ所有スルモノヲ以テ組織ス

第三條 本所ハ相互ノ福利ヲ増進シ生産事業ヲ督勵シ營業上ノ弊害ヲ矯正スルヲ以テ目的トス

第四條 本所ハ防長鹽田同業組合定款ヲ遵守スルモノトス

## 第二章

第五條 毎年春期現業者ノ定期總集會ヲ開キ鹽田持惱ミ方法及ヒ期日其他本所ニ必要ナル事項ノ決議ヲナスヲ要ス

第六條 食鹽包裝其他營業上ニ必要ナル物品ニシテ共同購入ノ便利ナルモノハ本所ニ於テ購買配布スルモノトス

第七條 共同購入ノ物品ニ付テハ營業者ノ需要ヲ調査シ重役會ニ於テ其價格ヲ評定シ購入スルモノトス

第八條 營業者ハ本所ヨリ配布シタル物品ハ遲滯ナク受取ヲ要シ決シテ異議ヲ稱フルヲ得ス

第九條 營業者ノ引取物品代金ハ食鹽賠償金ト交互決算スルモノトシ若シ賠償金ニテ不足ヲ生シタルトキハ重役ニ於テ定

ムル期日内ニ本所ニ支拂フヲ要ス

第十條 前條納金期日ヲ遲滯スルモノハ重役ニ於テ定メタル延滯日歩ヲ支拂フヲ要ス若シ小作人ニシテ萬一物品購入代金

ヲ支拂ハサルトキハ地主其責ニ任スルモノトス

第十一條 營業者ノ製造シタル食鹽ハ總テ本所ノ手ヲ經テ鹽務局ニ納付スルモノトス

第十二條 食鹽納付ノタメ納付代人ヲ置ク

第十三條 食鹽包裝ハ本所ヨリ指定シタル一定均一ノ荷造リヲナスヲ要ス

第十四條 納付食鹽ニ等差ヲ生スルトキハ本所ハ其濱ノ記號ニヨリ明瞭ニ區別ヲナスヲ要ス

第十五條 營業者ニシテ鑑定等級ニ不服アルトキハ本所ニ届出ス可シ本所ハ其届出ニヨリ直ニ其鹽務局ニ再鑑定申請ヲナ

スモノトス

第十六條 食鹽納付ニ關スル手續及ヒ共同購買ニ關スル手續方法ハ別ニ細則ヲ以テ之レヲ定ム

第十七條 營業期間外ニ涉リ採鹹又ハ之レニ類似スル行爲ヲナスコトヲ得ス

## 第三章

第十八條 鹽質、荷造及重量ノ検査ヲナスタメ制導方ヲ置ク但シ便宜納付代人ヲシテ其任務ヲ兼掌セシムルコトアルヘシ



第十九條 營業者ハ荷造完成ノ後制導方ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 食鹽包裝ニハ一定ノ商標検査證票竝ニ濱名記號ヲ押捺シ又ハ烙記スヘシ

一 商標

一 各濱記號

一 検査證票

第二十一條 検査ノ手續方法ハ別ニ細則ヲ以テ之レヲ定ム

第四章 役員

第二十二條 本所ニ左ノ役員ヲ置ク

一 頭取 一名

一 評議員 四名

一 納付代人 若干

一 購買掛 若干

一 制導方 若干

一 事務員 若干

一 日雇頭 若干

第二十三條 頭取及ヒ評議員ハ本所總集會ニ於テ一般地主中ヨリ選舉スルモノトシ其任期ヲ二ケ年トス

第二十四條 納付代人ハ評議員ノ選舉ヲ以テシ總會ノ承認ヲ經ルヲ要ス

第二十五條 購買掛員以下ノ役員ハ重役會ニ於テ任免ヲ行フモノトス

第二十六條 頭取評議員ハ名譽職ニシテ滿期後再選スルコトヲ得

第二十七條 名譽職ニ當選シタルモノハ正當ノ事故ナクシテ就任ヲ辭シ又ハ半途辭職スルコトヲ得ス

## 第五章 會議

第二十八條 會議ヲ別チテ地主總會、重役會、總集會、役員例會ノ四種トス

第二十九條 重役會ハ頭取評議員ヲ以テ組織ス其開設ハ頭取ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ評議員二名以上ノ同意建議ニヨルモノトス

第三十條 重役會ニ於テ決議スヘキ事項概ネ左ノ如シ

### 一 營業上諸般ノ事項

一 每年末翌年度濱子雇入前貸金額ヲ定ムルコト

一 勞役ニ關スル諸般賃錢

一 需要品ノ價格

一 地主總會竝ニ總集會ニ提出スヘキ議題竝ニ年度決算豫算ノ取調

一 本規約ニ定メタル重役會ニ屬スヘキ事項

第三十一條 總集會ハ通常臨時ノ二種トシ通常總會ハ毎年一月之レヲ開設シ臨時會ハ必要ノ場合ニ於テ之レヲ開設スルモノトス

第三十二條 本規約ヲ修正又ハ變更スヘキカ或ハ他ノ事情ニヨリテ地主總會ノ必要ト認ムルトキハ重役會ノ決議ヲ以テ之ヲ招集ス

地主總會ハ期日前會議ノ目的事項ヲ記載セル通知書ヲ發シ頭取之レヲ招集シ自ラ會頭トナル

第三十三條 定例會ハ營業期間毎月六日、十六日、二十六日ノ三度本所ニ集會シ種々斯道ノ研究若シクハ議決ヲナスモノトス

第三十四條 凡ソ會議ノ決議ハ會員半數以上ノ出席者ヲ要シ出席者ノ過半數ヲ以テ之レヲ決ス可否同數ナルトキハ會頭ノ決スル所ニヨルモノトス

### 第六章 職務章程

第三十五條 頭取ノ擔任スヘキ任務ノ概要左ノ如シ

- 一 規約ニヨリ本所一般ノ事務ヲ監督スルコト
- 一 本所役員ヲ統轄スルコト
- 一 功勞者ヲ褒賞シ違約者ヲ處分スルコト
- 一 毎年度豫算ヲ定メ決算ヲ作り評議員ノ意見ヲ求メ之ヲ總會ニ提出シ其承認ヲ求ムルコト
- 一 必要ニ應シ重役會又ハ總集會ヲ招集スルコト
- 一 重役會ニ諮リ諸般協定ヲナスコト
- 一 金錢出納ノコト

第三十六條 評議員ノ任務ノ概略左ノ如シ

- 一 頭取ノ通知若シクハ二名以上ノ同意ニヨリ重役會ヲ開キ規則細則其他要用ナル事件ヲ處決スルコト
- 一 常ニ本所ノ業務ニ注意シ之レニ關シ意見アルトキハ頭取ニ開陳スルコト
- 一 頭取ノ提出セル議案報告書資産負債表竝ニ業務成績ヲ調査シ頭取ト共ニ署名スルコト
- 一 決議録ニ署名スルコト
- 一 其他本規約ニ定メタル件

第三十七條 納付代人以下ノ役員ハ頭取ノ指揮ニ從ヒ一定ノ期日時刻ヲ定メ本所出勤就務スルモノトス

第三十八條 納付代人以下ノ擔任スヘキ業務ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

## 第七章 會計

第三十九條 本所ノ會計年度ハ曆年度ヲ以テ一週年トス

第四十條 毎年會計年度ノ終リタルトキハ其年度ノ計算ヲ閉鎖シ決算ヲ遂ケ計算書資産負債表事業報告書ヲ作り總會ノ承認ヲ求ムヘシ

第四十一條 本所既往積立金明治三十七年 月 日 金

ハ別紙臺帳ニ明瞭ニ記載シ漸次増殖スルモノトス

第四十二條 本所積立金運轉方法ハ重役會ニ於テ利子期日ヲ定メ營業者ニ貸附スルモノトス

第四十三條 前條貸付ケタル金ヲ徵收スルニハ重役會ノ決議ヲ以テ隨時賠償金ノ内ニテ徵收スルモノトス

第四十四條 鹽務局ニ納付シタル鹽ノ賠償金ハ各自ノ領收ヲ許サス本所ニ於テ之ヲ領收シ之ヲ營業者ニ分配スルモノトス

第四十五條 本所ノ費金ハ豫算ヲ議定シ年度末ニ至リ決算報告ヲナスヘシ

第四十六條 臨時ニ要スル費金ハ重役會ノ決議ニ任ス

第四十七條 本所ノ費金ハ各戸ニ割布ス其賦課方法ハ慣行ノ三十六軒六歩ノ割トス

第四十八條 本所借入金ヲ要スルトキハ頭取負債主トナリ評議員ノ保證ヲ要ス

第四十九條 經費其他ノ費金ヲ徵收スルニハ第四十三條ヲ適用ス

## 第八章 賞 罰

第五十條 重役ニ於テ特種ノ功績アルモノハ總會ノ決議ニヨリ慰勞金ヲ贈呈スヘシ

第五十一條 重役以外ノ役員ニシテ特別ノ勤勞アリト認ムルモノハ重役會ノ決議ニヨリ慰勞金ヲ付與スヘシ

第五十二條 營業者ニシテ鹽務ニ功績アルモノハ總會ノ決議ニヨリ賞與ヲ贈呈スヘシ

第五十三條 濱子其他勞働者ニシテ特ニ功績アルカ又ハ他ノ模範トナルヘキモノハ相當ノ賞與ヲ付與ス可シ

第五十四條 營業ニシテ本規約竝ニ細則ニ違反シタルモノハ一圓以上二十圓以下ノ過怠金ヲ徵收ス

第五十五條 役員ニシテ規約又ハ細則ニ違反シタルモノノ處分ハ重役ニ一任ス

第五十六條 第十七條ニ違反シタルモノハ十圓以上二十圓以下ノ過怠金ヲ徵收ス

第五十七條 勞働者ニシテ本所命令又ハ規約ニ違反シタルモノハ重役會ニ於テ相當ノ處分ヲナスヘシ

第五十八條 勞働者ニ對シ多額ノ増給又ハ不當ノ心付ヲナシタルモノハ重役會ニ於テ相當ノ處分ヲ議定スヘシ

第九章 補則

第六十條 地主ヨリ小作人ニ付與スヘキ委任狀ハ第一號書式小作届ハ第二號書式讓與又ハ賣買ニヨリ退所届加盟誓約書ハ

第三號第四號書式地主ト小作人ト取結フヘキ契約書ノ内容記載文意ハ第五號書式ト定ム

(第一號書式) 委任狀

拙者所有ノ鹽田佐波郡西浦村第何番何屋濱ノ件ニ付何ノ誰ヲ以テ代理人ト定メ左ノ權限ノ事項ヲ代理爲致候事

一會所ニ於テ役員ヲ選舉スルコトアルトキハ之ニ關與スルコト

一春期總集會及臨時會ニ出席營業上ノ事項ヲ議定スルコト

一地主ニ關スル金穀受渡ノ件

一會所ヨリ提出セル豫算、決算竝ニ事業報告承認ノ件及之レニ關スル記名調印

一會所諸規則ヲ確守スルコト

右代理委任狀如件

年 月 日

住所 氏 名

(第二號書式)

小 作 届

拙者今回何郡何村何ノ誰所有鹽田何屋濱明治何年(或ハ何年ヨリ何年何年間)小作ノ儀約定致候就テハ規約ノ委任狀權限竝ニ總テノ

規約ハ無相違確守可致候仍テ地主連署ヲ以テ此段及御届候也

年 月 日

小作者 住所 氏 名

地主者 住所 氏 名

西ノ浦鹽田會所頭取 殿

(第三號書式)

鹽田讓與(賣渡)ニ付退所届

拙者所有ノ鹽田佐波郡西ノ浦村第何番何屋濱今回何郡何村何番何之誰ニ讓與(賣渡)候ニ付爾後該濱ニ係ル會所一切ノ關係ハ悉皆同人ノ負擔ト相成候ニ付別紙同人加盟誓約書相添ヘ此段及御届候也

年 月 日

住所 氏 名

西ノ浦鹽田會所頭取 殿

(第四號書式)

加盟誓約書

今回拙者何郡何村何ノ誰ヨリ佐波郡西ノ浦村第何番何屋濱ノ讓受(買受)候ニ付今後拙者ノ名義ニテ諸規則ハ勿論金穀ニ關スル事項等總テ拙者ノ負擔タルヘシ仍テ誓約書如件

年 月 日

住所 氏 名

西ノ浦鹽田會所頭取 殿

(第五號書式)

地主ト小作人ト取結フ契約書式ハ各自適宜ニ任スレトモ必ス左ノ二項ハ記載セサル可ラス

一 會所諸規約ハ總テ遵守スヘシ

一規則ニ違反シタル所業アルカ又ハ一般妨害ヲ招クヘキ事蹟アリト認メラレタルトキハ何時小作ヲ差止メラルルモ故障申聞敷速カニ休作可致候

第六十一條 本規約ハ地主總會ノ決議ヲ以テ補正若シクハ變更ヲナスコトヲ得

右今回地主總會ニ於テ決議セシモノニシテ共ニ履行實施スヘキ者ナリ依テ各自記名捺印候也

明治三十八年五月

- 藤村 吉九郎
- 藤村 郁一
- 福田 潤藏
- 林 藤三郎
- 三輪 宗十郎
- 藤田 貞三
- 藤田 庄八
- 柳 藤吉
- 守田 太助
- 若月 他人
- 橘 庄之助
- 今田 勇吉
- 岸本 茂十郎
- 宍戸 トミ

松浦貞固  
山口信明  
山本郁彦  
坂本貞熊  
山尾福三  
藤田平作  
森川房太郎

第十一章 試驗

第十二章 輸出入及試賣

第十三章 鹽田以外ノ製鹽裝置及方法

第十四章 燒鹽

第十五章 再製鹽

右五章該當記事ナシ

第十六章 鹽田ノ地價等

一 鹽田ノ地價、時價、小作料及鹽田ト他ノ土地トノ比較  
西ノ浦鹽田ノ地價ハ各樹ニヨリ多少ノ差異アルヲ以テ之ヲ各樹ニヨリ平均地價ヲ示セハ次表ノ如シ

一ノ樹(一段步當)	二ノ樹(一段步當)	三ノ樹(一段步當)
二五、 <sup>円</sup> 二九九	二五、 <sup>円</sup> 八四四	二六、 <sup>円</sup> 四七六

(九) 三田尻鹽務局本局ノ部  
第十一章 試驗  
第十四章 燒鹽  
第十二章 輸出入及試賣  
第十五章 再製鹽  
第十三章 鹽田以外ノ製鹽裝置及方法  
第十六章 鹽田ノ地價等  
三一



而シテ當鹽田ノ時價ヲ上、中、下ニ分チ表示スレハ次ノ如シ(但シ一段歩ニ付)

上	鹽田	中	鹽田	下	鹽田
1100,000 <small>円</small>		1140,000 <small>円</small>		1180,000 <small>円</small>	

更ニ之レヲ田、畑ト比較對照スレハ次ノ如シ(但シ一段歩當)

水田	上	中	下
1110,000 <small>円</small>	190,000 <small>円</small>	110,000 <small>円</small>	160,000 <small>円</small>
畑	150,000 <small>円</small>	110,000 <small>円</small>	100,000 <small>円</small>

結 論

當西ノ浦濱ハ採鹹煎熬共ニ三田尻大濱ニ異ナルナキモ其鹽質ニ至リテハ稍々佳良ノ傾アリ然レトモ從來三田尻大濱ニ比シテ常ニ鹽價ノ安價ナリシハ附近ニ大製產地ヲ控フルノ影響ニシテ即チ三田尻濱ノ如キハ買手ノ注文ニ應シ何時ニテモ任意ノ數量及ヒ俵數ヲ登載シ得ルニ反シ當濱ノ如キハ如斯ナラサルノミカ時ニヨリテハ三四日間ヲ經ルニアラサレハ希望ノ數量ト俵數トヲ調達スルコト能ハサルヲ以テ從テ買手ノ嫌フ所トナリ勢ヒ三田尻濱ヨリハ幾分カ廉價ヲ以テ販賣セサルヲ得サル點ヨリ常ニ大濱ニ比シテ百石ニ付約十圓程ノ相違アリタリ而シテ當濱ノ戸數ハ三十四軒ニシテ其釜數三十四別ニ三戸ノ助ケ釜アリ内石釜二十八、鐵釜六、製鹽業者十六名ニシテ一ケ年總生産高ハ平年約八萬石ナリ